

第 2 回三重県ジェンダーギャップ解消基本戦略（仮称）検討会議 意見概要

働く上で重視すること (若い世代)	・ <u>仕事のやりがい</u> ・ 成長、学び、若いうちから挑戦できる環境 ・ <u>リモートワークなど柔軟な働き方、子育てとの両立や勉強時間確保などができるワークライフバランス</u> ・ 職場の雰囲気、人間関係 ・ (都内で子育てができる水準の) 給与
めざす姿について	・ <u>「ワークライフバランス」や「やりがい」についての記述が少ない。</u> ・ 住居費割合の低さ、可処分所得の高さは魅力的。東京では家賃も高く、住居購入も想像できない。 ・ 経済環境のよさには、男性の給料が高く、女性のパートが多いという背景があると思うと、自分自身が望む働き方ができるか不安。 ・ <u>「子育てしやすい環境」の解像度をもう少し上げてほしい。仕事を頑張りたい人が育児をしやすい環境を整えることが重要。現代風の子育てのしやすさの定義をするべき。</u> ・ <u>「あえて三重県に戻る」という引力は何か、議論が必要。</u> ・ 若者が重視している <u>「自己実現」をいかに三重県でできるかを書き込む</u>とよい。 ・ <u>三重県に残りたい人が残れることも必要。残留層を対象にした要因分析が必要。</u> (石阪委員) ・ <u>経営者が若いという強みを生かし、先進的な取組をしている企業やスタートアップなど若手の支援などを押し出してブランディングするとよい。</u>
アンコンシャスバイアス	・ 自分の母のように 3 年ぐらいいは仕事をせずに子育てに専念した方がよい思っており、バイアスがかかっているかもしれない。 ・ アンコンシャスバイアスは職場のみならず、学校や住環境においてもあると思う。どこに焦点を置いていくか気になる。 ・ 父親が長期で育休を取得して育ててくれたという東京の友人の話を聞いて、アンコンシャスバイアスに気付いた経験がある。 ・ 昭和的な男性らしさ・女性らしさを脱却し、<u>男性も女性も共に働き、共に育てるという「三重スタイル」を打ち出していくとよい。</u>

仕事と子育て等の両立・環境整備	・ <u>若者の「仕事を頑張りたい＝子どもを諦める」という認識を変える必要がある。</u> ・ 仕事のために何かを諦めるのではなく、<u>「全てを実現させてあげられる」というメッセージ性を打ち出すことが三重のめざす姿に近づく。</u> ・ <u>結婚・子育て・介護等のきっかけで戻ってくることを選んでもらえるような環境整備が必要。</u> ・ 企業としては、地方だからと諦めるのではなく子育てとの両立等ができる環境整備に取り組む姿勢が必要とわかった。
東京と地方のギャップ	・ 三重県では、子どもに体験させてあげられることが少ないのではと懸念している。 ・ 都内では、長期インターンや政治的活動など、高校生のときから経験している幅が広い。 ・ <u>東京との体験格差を乗り越える、または三重県ならではの特別な体験ができるという政策があればよい。</u> ・ 教育に関する選択肢が東京の方が豊富。地方出身者と東京出身者のギャップについても考える必要がある。
その他	・ 多拠点生活の一つとして三重県を選んでもらうこともあり得るのではないかな。 ・ 「女性枠」などアフーマティブアクションを感じている人もいる。多様な層に意見を聞くことが必要。